

造形通信

2026. 2月
NO.84
ひいらぎこども園

冷たい風が吹き、ダウンを着て、マフラーを巻いても背中を丸めて歩いてしまいます。まだまだ厳しい寒さは続きそうです。でも、町の街路樹をよく見てみると、小さなつぼみがほんのり膨らんできているのがわかります。自然の営みって不思議なものです。寒さや温かさを感じて、自分でしっかりと準備をしているんですね。



みんなの作品 大集合！

1月26日から30日まで『みんなのにじいろてん』がひいらぎこども園の1階と2階で開催されました。登園してから、子どもたちがうれしそうな顔をして親御さんを案内しています。自分の作品になると、少し照れながらもうれしそうに説明している姿がとてかわいらしいです。一つ一つ見てみると、おもしろいな、これは何だろうと思って作品紹介のコメントや作った子どもの写真を見ていると、製作過程がわかり、より作品を理解することができます。



作品を通して、 子どもを見つめなおす

うまくできなくて、何度もやり直した子、友達に教えてもらったり、教えてあげたりして作りあげた子、友達と一緒にできて達成感を味わった子等、作品の制作過程は様々です。みんなで作る楽しさを感じたり、うまくいかなくてもあきらめずに最後まで作ったり、もっと良くしようという工夫したりして。作品作りを通して、子どものまた違った姿が見えてきます。



玄関ホールには乳児クラスの子どもの作品がずらり！



階段、ランチルームにはにじ組の作品がいっぱい！



サッカー選手の服は
天井からハンガーに
かける！

作品の底の部分に注目させたくて、下に鏡を付けています。
ユニークな展示の仕方ですね！



自然木を使ってイーゼルを作って作品を置きました。いい感じですね！



ペットボトルの蓋に一本の木が立っています。ほんの12,3センチの作品です。ポツンと置くだけでなく、木の周りを紙で覆うようにすることで、空のような空間ができました。枝に雪が積り、周りにも雪が降って空間に広がりが出ました。

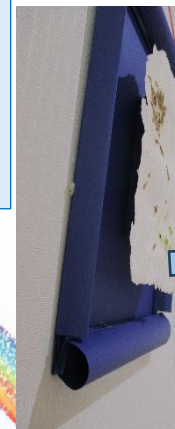


神明小学校の先生の作品展鑑賞後の感想

子どもたちの豊かな発想とそれを最大限に見せる展示方法等学ぶことが多くあり、大変勉強になりました。

展示の工夫がいっぱい！

『みんなのにじいろ展』では、まだまだ展示の工夫が見られました。子どもたちの作品をひと工夫して展示することでその良さがより一層高まります。展示の仕方も重要な要素です。



たった一枚のはがき大の大きさの和紙です。色画用紙で立体的に作った額に、薄い和紙を少し浮かせてはっています。



箱を使い、作品を少し浮かせておくだけで、奥行きと広がりを感じさせる作品になりました。